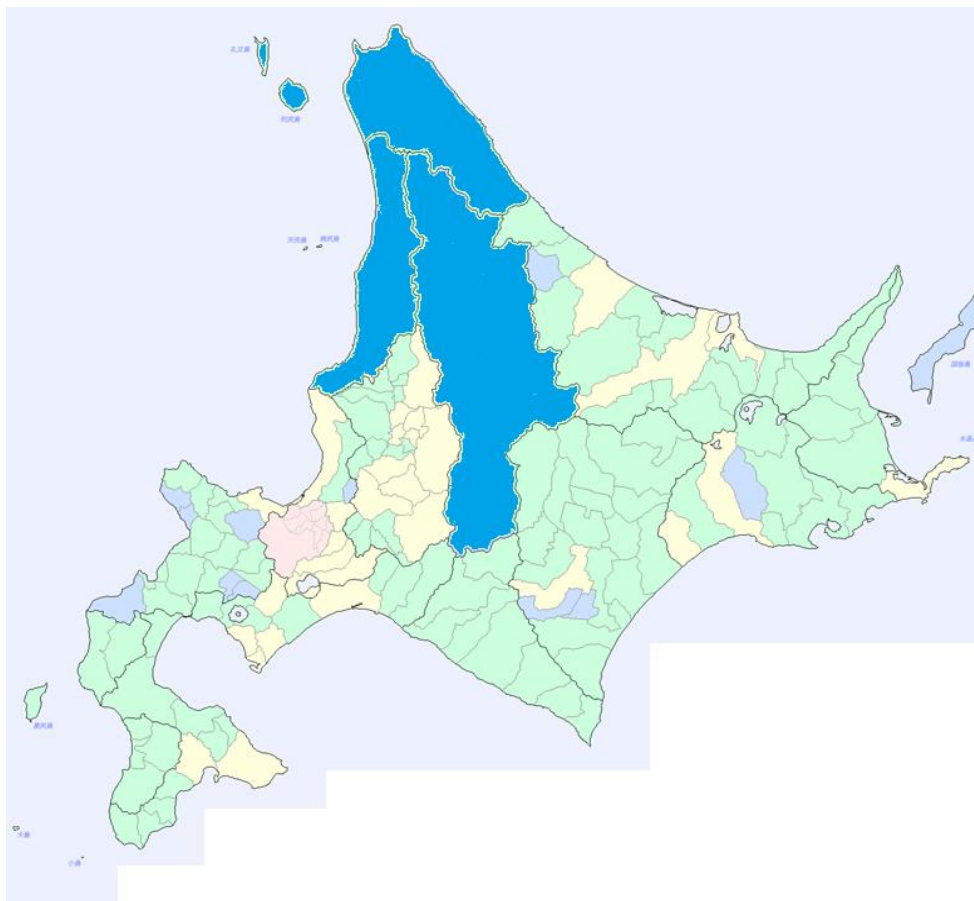


道北地域保健情報年報



上川総合振興局保健環境部保健行政室（上川保健所）
上川総合振興局保健環境部名寄地域保健室（名寄保健所）
上川総合振興局保健環境部富良野地域保健室（富良野保健所）
留萌振興局保健環境部保健行政室（留萌保健所）
宗谷総合振興局保健環境部保健行政室（稚内保健所）
旭川市保健所

平成28年2月

平成26年版道北地域保健情報年報

区分		項目	ファイル番号
目次		目次(年報表一覧)	
地域の概要		はじめに	データ No.1
		解説	
		北海道上川総合振興局保健環境部保健行政室(上川保健所)・旭川市保健所	
		北海道上川総合振興局保健環境部保健行政室名寄地域保健室(名寄保健所)	
		北海道上川総合振興局保健環境部保健行政室富良野地域保健室(富良野保健所)	
		北海道留萌振興局保健環境部保健行政室(留萌保健所)	
		北海道宗谷総合振興局保健環境部保健行政室(稚内保健所)	
第1章 人口の動向	1 人口	第1表 人口、世帯、面積及び人口密度	データ No.2
	2 人口動態	第2表 国勢調査総人口の推移	
		第3表 国勢調査総人口(性・年齢階級別)	
		第4表 人口動態総覧(実数・率)	
		第5表 出生数(性・体重別)	
		第6表 出生数(母の年齢階級別・出生順位別)及び合計特殊出生率	
		第7-1表 死亡数(性・年齢階級別)	
		第7-2表 死亡数(死亡場所別)	
		第8表 死亡数(主な死因・年次推移分類)及び死亡率(人口10万対)	
		第9表 悪性新生物死亡数(性・年齢階級別)	
		第10表 悪性新生物死亡数(性・主要部位別)	
		第11表 心疾患死亡数(性・年齢階級別)	
		第12-1表 心疾患死亡数(性・病類別)	
		第12-2表 急性心筋梗塞死亡数(性・年齢階級別)	
		第12-3表 その他の虚血性心疾患死亡数(性・年齢階級別)	
		第13表 脳血管疾患死亡数(性・年齢階級別)	
		第14-1表 脳血管疾患死亡数(性・病類別)	
		第14-2表 脳内出血死亡数(性・年齢階級別)	
		第14-3表 脳梗塞死亡数(性・年齢階級別)	
		第15表 肺炎死亡数(性・年齢階級別)	
		第16表 不慮の事故死亡数(性・年齢階級別)	
		第17表 自殺死亡数(性・年齢階級別)	
第2章 保健予防	1 母子保健	第18表 母子保健(妊娠の届出・健康診査)	データ No.3
	2 栄養改善	第19表 1歳6ヶ月児歯科健康診査の結果	
		第20表 3歳児歯科健康診査の結果	
		第21表 母子保健(保健指導)	
		第22表 母子保健(訪問指導)	
		第23表 人工妊娠中絶数(年齢階級・妊娠週数別)	
		第24表 健康増進(栄養・運動等指導)	
		第25表-1 保健所栄養改善活動状況(集団指導)	
		第25表-2 保健所栄養改善活動状況(個別指導)	
		第26表-1 市町村栄養改善活動状況(集団指導)	
		第26表-2 市町村栄養改善活動状況(個別指導)	
		第26表-3 市町村栄養改善活動状況(会議・研修等・その他)	
		第27表-1 給食施設指導数(個別)	
		第27表-2 給食施設指導数(集団)	
	3 結核	第28表-1 結核新登録患者数(年齢階級別)	
		第28表-2 結核登録患者数(年齢階級別)	
		第29表-1 結核新登録患者数(活動性分類・受療状況)	
		第29表-2 結核登録患者数(活動性分類・受療状況)	
		第30表 一般住民結核健診数	
		第31表-1 結核予防(BCG)	
		第31表-2 結核予防(相談・訪問指導等)	
		第32表 結核管理検診数	
		第33表-1 結核の接触者健康診断数	
		第33表-2 結核の接触者健康診断数(QFT検査結果)	
	4 感染症	第34表-1 予防接種(定期)接種者数	
		第34表-2 予防接種(定期)接種者数	
		第35表-1 感染症患者数	
		第35表-2 エイズ	
		第36表 エキノコックス症検診数	
		第37表 エキノコックス症媒介動物剖検数	

	5 歯科保健	第38表 歯科保健(健診・保健指導)	
		第39表 歯科保健(予防処置・治療)	
	6 医療給付	第40表 医療給付事業	
		第41表 小児医療等給付事業	
第2章 保健予防	7 成人保健	第42表 健康増進事業(健康手帳の交付)	データ No.4
		第43-1表 健康増進事業(個別健康教育)	
		第43-2表 健康増進事業(集団健康教育)	
		第44表 健康増進事業(健康相談)	
		第45表 健康増進事業(健康診査)	
		第46-1表 健康増進事業(主な検査項目別の受診者数及び検査結果別人員)	
		第46-2表 健康増進事業(保健指導利用区分別延人員・利用実人員)	
		第47表 健康増進事業(歯周疾患検診・骨粗鬆症検診)	
		第48表 健康増進事業(機能訓練)	
		第49-1表 健康増進事業(訪問指導)	
		第49-2表 健康増進事業(訪問指導従事者)	
		第50-1表 健康増進事業(胃がん検診 平成24年度受診状況)	
		第50-2表 健康増進事業(胃がん検診 平成23年度精密検査の結果)	
		第51-1表 健康増進事業(肺がん検診 平成24年度受診状況)	
		第51-2表 健康増進事業(肺がん検診 平成23年度精密検査の結果)	
		第52-1表 健康増進事業(大腸がん検診 平成24年度受診状況)	
		第52-2表 健康増進事業(大腸がん検診 平成23年度精密検査の結果)	
		第53-1表 健康増進事業(子宮がん検診 平成24年度受診状況)	
		第53-2表 健康増進事業(子宮がん検診 頸部・平成23年度精密検査の結果)	
		第53-3表 健康増進事業(子宮がん検診 体部・平成23年度精密検査の結果)	
		第54-1表 健康増進事業(乳がん検診 平成24年度受診状況)	
		第54-2表 健康増進事業(乳がん検診 平成23年度精密検査の結果)	
		第55-1表 健康増進事業(肝炎ウイルス検診)	
		第55-2表 健康増進事業(肝炎ウイルスに関する健康教育及び健康相談の実施)	
	8 特定疾患	第56表 特定疾患医療受給者数(国)	
		第57-1表 特定疾患医療受給者数(北海道)	
		第57-2表 ウイルス性肝炎進行防止対策医療受給者数(国・北海道)・橋本病重症患者対策医療受給者数(北海道)	
	9 精神保健	第58-1表 保健所把握精神障害者数(入院病類別)	
		第58-2表 保健所把握精神障害者数(通院病類別)	
		第58-3表 保健所把握精神障害者数(その他病類別)	
		第59表 保健所把握精神障害者数(新規)	
		第60表 保健所把握精神障害者数(受療別)	
		第61-1表 精神保健事業(相談等)	
		第61-2表 精神保健事業(電話相談等)	
		第61-3表 精神保健事業(普及啓発等)	
	10 保健師活動	第62表 保健師家庭訪問数	
		第63表 保健師業務別割合	
医療と薬事 第3章	1 医療	第64表 保健医療施設数	データ No.5
		第65表 医療施設数・病床数(人口10万対)	
		第66-1表 保健医療従事者数(人口10万対)	
		第66-2表 職員配置状況(保健所・地域保健事業に関わる部署)	
		第67表 保健所把握保健医療機関従事者数(人口10万対)	
	2 薬事	第68表 医薬品等取扱業者数	
		第69表 献血者数	
生活環境 第4章	3 介護保険	第70表 介護保険(施設数、実地指導数)	
	1 環境衛生	第71表 環境衛生(施設数)	
		第72表 環境衛生(監視数)	
	2 食品衛生	第73表 食品衛生(施設数)	
		第74表 食品衛生(監視数)	
		第75表 食品等収去検査数	
	3 狂犬病予防	第76表 狂犬病予防及び野犬掃とう数	
育衛第 等生5 教章	1 衛生教育	第77表 衛生教育	
	2 試験検査	第78表 臨床検査数	
		第79表 生活環境検査数	
別表		別表1 食中毒発生事例	データ No.6
		別表2 苦情処理件数	
		別表3 動物愛護法関係	
		別表4 シックハウス対策状況(相談件数)	
		別表5 シックハウス対策状況(測定件数)	

は じ め に

この「道北地域保健情報年報」は上川、留萌、宗谷（総合）振興局管内の6保健所、41市町村（平成25年度末現在）における保健統計、保健衛生及び生活衛生関係の情報について取りまとめております。

平成28年2月

北海道上川総合振興局保健環境部保健行政室（上川保健所）
北海道上川総合振興局保健環境部名寄地域保健室（名寄保健所）
北海道上川総合振興局保健環境部富良野地域保健室（富良野保健所）
北海道留萌振興局保健環境部保健行政室（留萌保健所）
北海道宗谷総合振興局保健環境部保健行政室（稚内保健所）
旭川市保健所

解 説

1 本書の内容

(1) 本年報は、第2次保健医療福祉圏(21圏域)を単位とする、保健・医療・衛生等に関する統計情報を掲載したものです。

(2) 本年報の統計数値は、人口動態統計、地域保健・老人保健事業報告、各業務報告及び保健所諸統計資料を基本とし、その他官公庁から資料の提供を受け、前年(度)数値を掲載したものです。基となった資料は各表下欄に出典を記載しています。

(3) 資料中の年表示は「年」は1月1日から12月31日まで「年度」は4月1日から3月31日までで、「〇日現在」は調査日現在を示すものです。

(4) 本年報の基礎人口は、特に記載のない限り当該年10月1日現在の推計人口(国勢調査年は、国勢調査日本人人口)を使用しています。

2 用語の説明

本書の用語の定義は、次のとおりです。

- (1) 低出生体重児: 出生児の体重が2,500g未満の出生児をいいます。
- (2) 乳児死亡: 生後1年未満の死亡をいいます。
- (3) 新生児死亡: 生後28日未満の死亡をいいます。
- (4) 早期新生児死亡: 生後7日未満の死亡をいいます。
- (5) 周産期死亡: 妊娠満22週以後の死産と早期新生児死亡を合わせたものをいいます。
- (6) 死産: 妊娠満12週以後の死児の出産をいいます。
- (7) 死因分類: 第10回修正国際疾病分類(ICD-10)によります。

3 計析に用いた比率

本年報に用いた比率の計算は、次のとおりです。

- (1) 出生率・死亡率・自然増加率・離婚率 $= \frac{\text{年間(出生・死亡・自然増加・離婚届出)数}}{\text{人口}} \times 1,000$
- (2) 死産率・自然死産率・人工死産率 $= \frac{\text{年間死産数(総数・自然・人工)}}{\text{年間出産数(出生数+死産数)}} \times 1,000$
- (3) 低出生体重児率 $= \frac{\text{低出生体重児数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$
- (4) 乳児死亡率・新生児死亡率・早期新生児死亡率 $= \frac{\text{年間(乳児・新生児・早期新生児)死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$
- (5) 周産期死亡率 $= \frac{\text{年間(妊娠満22週以後の死産数+早期新生児死亡数)数}}{\text{年間出産数(出生数+妊娠満22週以後の死産数)}} \times 1,000$
- (6) 妊娠満22週以後の死産率 $= \frac{\text{妊娠満22週以後の死産数}}{\text{年間出産数(出生数+妊娠満22週以後の死産数)}} \times 1,000$
- (7) 合計特殊出生率 $= \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢階級別女子人口}} \quad 15歳から49歳までの合計$

(注) 分母人口は、各年の10月1日現在の日本人人口を用いています。

4 表章記号の規約

本年報の用法は、次のとおりです。

- (1) その事象が出現する可能性を持っているが、統計上出現しない場合 —
- (2) その事象が出現することは、本質的にあり得ない場合 ・
- (3) 統計数が不明の場合、又は統計数を表章することが不適当な場合 …
- (4) 小数点以下の数が切り捨てられて、0になる場合 0.0
- (5) 減少の場合 △

5 年報の編集単位

発行単位	総合振興局保健環境部保健行政室・地域保健室(保健所)	第2次保健医療福祉圏	年報編纂総合振興局保健環境部保健行政室・地域保健室	保健所名
道 南	渡島総合振興局保健環境部保健行政室(渡島保健所)	南 渡 島	渡島総合振興局保健環境部保健行政室	渡 島
		北渡島檜山	渡島総合振興局保健環境部八雲地域保健室	八 雲
		南 檜 山	桧山振興局保健環境部保健行政室	江 差
後 志	後志総合振興局保健環境部保健行政室(倶知安保健所)	後 志	後志総合振興局保健環境部保健行政室	倶知安
石 狩	石狩総合振興局保健環境部保健行政室(江別保健所)	札 幌	石狩総合振興局保健環境部保健行政室	江 別
空 知	空知総合振興局保健環境部保健行政室(岩見沢保健所)	南 空 知	空知総合振興局保健環境部保健行政室	岩見沢
		中 空 知	空知総合振興局保健環境部滝川地域保健室	滝 川
		北 空 知	空知総合振興局保健環境部深川地域保健室	深 川
日 胆	胆振総合振興局保健環境部保健行政室(室蘭保健所)	東 胆 振	胆振総合振興局保健環境部苫小牧地域保健室	苫小牧
		西 胆 振	胆振総合振興局保健環境部保健行政室	室 蘭
		日 高	日高振興局保健環境部保健行政室	浦 河
道 北	上川総合振興局保健環境部保健行政室(上川保健所)	富 良 野	上川総合振興局保健環境部富良野地域保健室	富良野
		上 川 中 部	上川総合振興局保健環境部保健行政室	上 川
		上 川 北 部	上川総合振興局保健環境部名寄地域保健室	名 寄
		留 萌	留萌振興局保健環境部保健行政室	留 萌
オホーツク	オホーツク総合振興局保健環境部北見地域保健室(北見保健所)	宗 谷	宗谷総合振興局保健環境部保健行政室	稚 内
		遠 紋	網走振興局保健環境部紋別地域保健室	紋 別
		北 網	網走振興局保健環境部北見地域保健室	北 見
十 勝	十勝総合振興局保健環境部保健行政室(帯広保健所)	十 勝	十勝総合振興局保健環境部保健行政室	帯 広
釧 路	釧路総合振興局保健環境部保健行政室(釧路保健所)	釧 路	釧路総合振興局保健環境部保健行政室	釧 路
		根 室	根室振興局保健環境部保健行政室	根 室

地域の概要

地域の概要

○上川総合振興局保健環境部保健行政室・旭川市保健所（上川中部地域保健医療福祉圏）

旭川市と鷹栖町・東神楽町・当麻町・比布町・愛別町・上川町・東川町・美瑛町・幌加内町の1市9町からなり、北海道のほぼ中央に位置して大雪山国立公園を擁し、石狩川が流れ丘陵地帯が広がる豊かな自然に恵まれた地域です。

総面積は 4,238.12km²、平成22年の国勢調査による総人口は403,246人で、そのうち8割以上を旭川市が占めています。

気候は、内陸地帯の盆地であるため、冬季と夏季の寒暖の差が極めて大きく、過去には冬季に零下41.0度（明治35年）、夏季には36.3度（平成12年）を記録する内陸性気候となっています。

産業別人口割合では、行政機関、企業の支店・営業所が集まっている旭川市と、層雲峡という観光地を持つ上川町は第3次産業の割合が7割を越え、第3次産業が基幹産業となっていますが、他の町では第1次産業の割合が全道平均に比べて高く、農業が基幹産業となっています。

基幹産業である農業は、稲作を中心に発展してきましたが、近年は野菜や花きの産地化が進み、本道の中核的な農業地帯として重要な位置を占めています。

地域の概要

○上川総合振興局保健環境部名寄地域保健室（上川北部地域保健医療福祉圏）

上川総合振興局管内最北部に位置し、全国第4位の長流である天塩川の流域を抱え、士別市、名寄市、和寒町、剣淵町、下川町、美深町、音威子府村、中川町の2市5町1村の8市町村で構成されています。

天塩岳道立自然公園をはじめとする数多くの自然が残されており、面積が4,197.40 km²と全道の総面積の5%を占め、東西55km、南北140kmにわたる広大な地域で、西に天塩山地、東は北見山地に囲まれ、その中央には名寄盆地が形成されています。

基幹産業は農・林業ですが、農業を取り巻く環境は輸入作物などで厳しく、後継者の不足に併せて雇用の場が少ないなどの理由により、若年層の流出による過疎化が進んでいます。

管内市町村では、地域特性を利用したカヌーなどのアウトドアスポーツの振興、スポーツの里づくりやユニークなイベントの開催など、新しい地域づくりに向けた取り組みが行われています。

気象は日本海型区域に属していますが、内陸部に位置していることから、直接影響を受けることは少なく、年間降雨量は多くはありませんが、夏季と冬季の寒暖差が大きく、道内でも降雪量の多い地帯となっています。

地域の概要

○ 上川総合振興局保健環境部富良野地域保健室（富良野地域保健医療福祉園）は、富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村の1市3町1村を管轄しています。北海道のほぼ中央に位置し、面積は約2,183km²で東京都（2,187km²）に匹敵する広さがあります。

地勢は、東に大雪山系十勝岳連峰の主峰十勝岳(2,077m)をはじめ、上ホロカメットク、富良野岳などの山々が連なり、西には夕張山系に属する夕張岳、芦別岳などが並び、この二つの山脈にはさまれるようにして富良野盆地が形成され、その中を石狩川水系空知川がシーソラプチ川、富良野川、布部川などの支流を集め、やがて石狩川に合流し遠く日本海に注いでいます。また、夕張山系から日高山脈に至る南部では、空知川上流のかなやま湖や鶴川の源流がある占冠村狩振岳など、豊かな自然環境を有しています。

気候は、気温の日格差、年格差が大きい内陸性気候で、夏は摂氏35度に達する日がある一方、冬は零下30度近くまで下がる日があります。

基幹産業は、稲や野菜などの畑作、酪農などの農業である。富良野盆地特有の昼夜の寒暖差によって、糖度の高いメロンやスイカなどが生産されています。また、全国的に有名なラベンダーをはじめ、スキーやラフティングなどの自然体験型観光も盛んで、道内を代表するリゾート地にもなっています。

自然災害に関しては、十勝岳が気象庁噴火警戒レベル火山の一つとして観測情報が提供されています。平成26年4月1日現在、噴火警戒レベル1（平常）となっていますが、1857年以降5回の大噴火が記録されており、1926年には大噴火による泥流発生で死者不明者144名、1962年の大噴火は死者不明者4名という人的被害が出ており、警戒が必要な火山です。

地域の概要

○留萌振興局保健環境部保健行政室（留萌地域保健医療福祉圏）

留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町の1市6町1村から構成されています。

北海道の北西部に位置しており、北には天塩川が流れ、南には増毛山地、東には天塩山地がせまり、西には日本海が広がる臨海山村地域を形成し、その地形は、南北約130km、東西約60kmの縦長の地域となっています。

管内を南北に貫く海岸線は「日本海オロロンライン」の愛称で親しまれ、海水浴シーズンを中心に多くの観光客が訪れています。また、中南部には「暑寒別天売焼尻自然公園」を有し、離島等の景勝地を擁する自然に恵まれた地域でもあります。羽幌町からは焼尻島・天売へのフェリーが運行され、離島住民の重要な交通手段となっており、観光客の多い4月～8月には高速船も運航されています。天売島はウミガラス（オロロン鳥）、ウミネコ、ウミウ、ウトウなどの海鳥繁殖地としての国の天然記念物に指定されていますが、これらの海鳥の多くは年々減少してきています。

気候は、対馬暖流の影響で内陸部に比べ温暖で、夏の終わりから冬にかけて雨量が多い傾向にあります。冬期間は、比較的積雪量も多く、日本海側特有の北西の季節風が地吹雪を起こすこともあります。現在ではその強い季節風を利用し、巨大風車により発電する大型の風力発電施設が稼働しています。

管内人口は、昭和30年代前半の14万人をピークにその後減少傾向が続き、平成22年国勢調査では53,105人とピークの4割を切りました。産業別人口割合では第1次産業の占める割合が全国平均より高く、農業、水産業が基幹産業となっています。南部では果樹、中南部では稲作・畑作・野菜、そして北部では酪農、とバラエティー豊かな農業が営まれています。特に水稻生産は日本の北限生産地でもあり、冷涼な気候を生かし低農薬での生産が可能なおことから、道内有数の低タンパクな良質米産地として高い評価を得ています。しかし最近では第1次産業に従事する人口が減少し、第3次産業の従事者の割合が増加傾向となっています。管内の工業は、水産加工品を中心とした食料品製造業が全体の8割（出荷額）を占めています。

地域の概要

○宗谷総合振興局保健環境部保健行政室（宗谷地域保健医療福祉圏）

稚内市、猿払村、浜頓別町、中頓別町、枝幸町、豊富町、礼文町、利尻町、利尻富士町、幌延町の1市8町1村により構成されています。

西は日本海、東はオホーツク海に面し、北方は宗谷海峡を挟んでロシア・サハリン州に接する日本最北の地であり、総面積は4,625.15km²で本道の面積の約5.5%に当たり、2島の離島を含む利尻礼文サロベツ国立公園やラムサール条約登録湿地（サロベツ原野・クッチャロ湖）を擁する自然豊かな地域です。

平成22年国勢調査による管内人口は73,447人で本道の約1.3%に当たり、そのうち50%以上を稚内市が占めています。

気候は、海沿いの地域では、海洋の影響により概して夏は冷涼で冬は温暖であり、季節による寒暖の差が小さいですが、オホーツク海側では、季節風や流氷などの影響により、日本海側と比較して、やや寒暖の差が大きくなっています。また、管内南部の内陸部は非常に寒暖の差が激しい地域となっています。海岸地帯は年間を通じて風が強く、それを生かした風力発電施設が数多く立地しています。

基幹産業は水産業及び農業となっています。水産業では、魚種別でホタテ貝が量及び金額とも最も多く、平成25年度は金額ベースで約50%を占めています。農業では、酪農業が主体で牛乳の生産が盛んに行われています。